

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム あずみ
日付	平成19年3月31日
	特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験9年
評価調査員	老人保健施設介護実務経験6年 居宅支援事業所介護支援専門員経験6年
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
医療・福祉系の仕事以外の世界に居た人が「人の為になる仕事を」とか「地域社会に役立ちたい」という願いからグループホームを立ち上げたという話はよく聞くが、かつて自分の母親を見た経験から「我が親を看るような気持ちでよいケアを提供して、少しでも自立度アップにつなげたら」の思いから、このホームを作った代表の永永と続く暖かい眼差しを、今日の訪問程熱くいっぱい感じた所は少ない。職員の数が多く、利用者の見守りや寄り添い、個別の対応に時間を多くとれる事、グループホーム単独ではなかなか設置出来ない浴室用リフトや衛生管理の為の消毒設備の設置は、本人や家族の喜びと共に、職員の安心・安全の基であろう。職員が健康で気持ちよく働けるなら自ずと笑顔になるだろうし、職員の笑顔は、利用者の心にも通じる。代表者は、こういったハード面の支援だけでなく、毎週日曜日には皆と一緒に食事して楽しむという話しも聞いた。こういった代表者の熱い思いを管理者はしっかりと受け止めて「一人ひとりの人間としての尊厳を大切に、今持っている力を最大限に発揮していただく為の支援」を目指している。「その為、ここでは排泄支援に格別に力を入れている。これが人の尊厳の原点」と静かに話す。職員もこの思いを共有し、私達の数時間の滞在中にも数多くの支援の状況をつぶさに見る事が出来た。又種々の記録や職員の話しの中から「入居時には失われていた色々な能力が次々と蘇り、本人も家族も喜んでいる。職員もここでの仕事にやりがいを感じ益々意欲を増している」といった様子がよく伺われた。その人にフィットした良いケアのお陰で、要介護3だった人が1に変わって、非常に喜んでくれる代表者の姿勢に、このホームの真髄を見る気がした。
特に改善の余地があると思われる点
次のような提案をした
「ホームを信頼して、お任せします」といった感じで、家族とも厚い信頼関係が得られていると思うが、家族に頼られるだけの関係ではなく、同じ太さの手で握手した方がより強くなると思う。家族会の立ち上げもその第一歩。小さな事から進めてもらいたい。
「苦情処理報告書」はこのホームの姿勢をくまなく教えてくれる。この報告書の書式をもう少し工夫し、その後どう改善したか、ケアプランにどう繋いだか、メモでも残せば、更に素晴らしいものになると思う。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	毎月家族に送られている「月刊あずみ通信」は、ここでの暮らしの様子がありありと手に取るように分かるコメント付き写真満載の優れた物である。「あんな、きれいに写るとが」「もともと、きれいなんじゃもん。当たり前じゃ」写真をお互い見せ合い、行事の話しをしてくれたり、冗談を言い合ったりと、リビングルームで楽しい会話や趣味の塗り絵、また食事の下拵の手作業が続く。削りかつおを紙バックに詰める細かい仕事も慣れたものだ。職員は「私達の側の勝手な思い込みや押し付けは、出来る限り無くしていきたい。何かを常識的に考え判断するのではなく、利用者の言い分にしっかり耳を傾けたい」と言い、実践している。一人ひとりの言い分を決して疎かにする事無く傾聴し、信頼関係を築く。「食べる事」と「排泄支援」を軸に、内在している能力を色々な角度から引き出す工夫と努力をする。利用者は、人間らしい。そして自分らしい生活を取り戻している。こんな日々の継続があるから、リビングルームの安らぎがあるのだろう。グループホームならではの安らぎと思う。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	このホーム内は、今までで他で経験した事のないような「空気の流れ」を感じる。さんは、大好きな職員を探して両ユニットを行き交う。「ちょっと出掛けて来ます」と言って、「雨なのに?」と思っているとお隣へ、と言う人もある。他ではあまり使われることの無い玄関も行き来の通路。管理室でさえ、利用者の通路兼溜まり場だ。利用者は各自の居室の他に、テーブルの指定席、さらにあちこちに自分の居場所を持つ事が出来る。今日は冷たい雨の日だが、良いお天気の日には広い庭や菜園でも活躍出来るのだろう。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	「私は百姓を頑張ってやってきた」「私は商売していた。シンガポール、ヨーロッパにも行った」「先生をしていた。朝鮮に喧嘩の仲裁に行った」「色んな人に着付けをしたんよ。大きい人にも小さい人にも」「松健サンバ、大好きなんよ、ねっ」		
	職員が寄り添い、利用者とお喋りする内容は様々だが、その人が輝いていた頃の話しや、本人が言いたい事を上手に引き出して話題に載せる様は見事だ。言葉が出ない人には、その人に成り代って職員が話してあげる。うん、うんと頷き笑う。さんは「我が意を得たり」の顔になる。「いい関係になっているなあ」と思う。		
	一人ひとりの力や経験・今まで歩いて来た道を、職員はよく共有し、日常生活の中や会話に上手く活かしている。コミュニケーションだけではない。いそいそと家事に励む人、趣味の作品作りに熱中する人の姿や「よう働いて来たから、ここでゆっくりしたいんじゃ」と訴えているような人の姿を、このホームはふんわりと暖かく包みこんでいる。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	利用者本人の希望や訴えに、どこのグループホームも耳を傾けようとしているが、このホームは、きちんとした受け止め方を、大切に形にし、明日へのケアに繋いでいる所が素晴らしい。ここでは利用者本人の些細な呟きすら職員は耳に留め、「苦情」として直ぐに報告書を書く。自分なりの対応や問題点も記録し、他の職員も共有するシステムを作っている。「ひやり・はっと」の報告書も同様だ。「ちょっとしたトラブルを良いチャンス」と捕らえている。素晴らしいホームと思う。		
	又、敬老会ではご近所の高齢者の方々も呼んで茶話会をすると言う。その為、利用者と一緒にポスター作りをしてたのしんでいる。地域の人々・家族もしっかり巻き込んでいて、皆で築くホームに育てていって欲しい。		